美作市人口ビジョン

「2040 年の人口を 25,000 人以上に。」

平成２７年８月

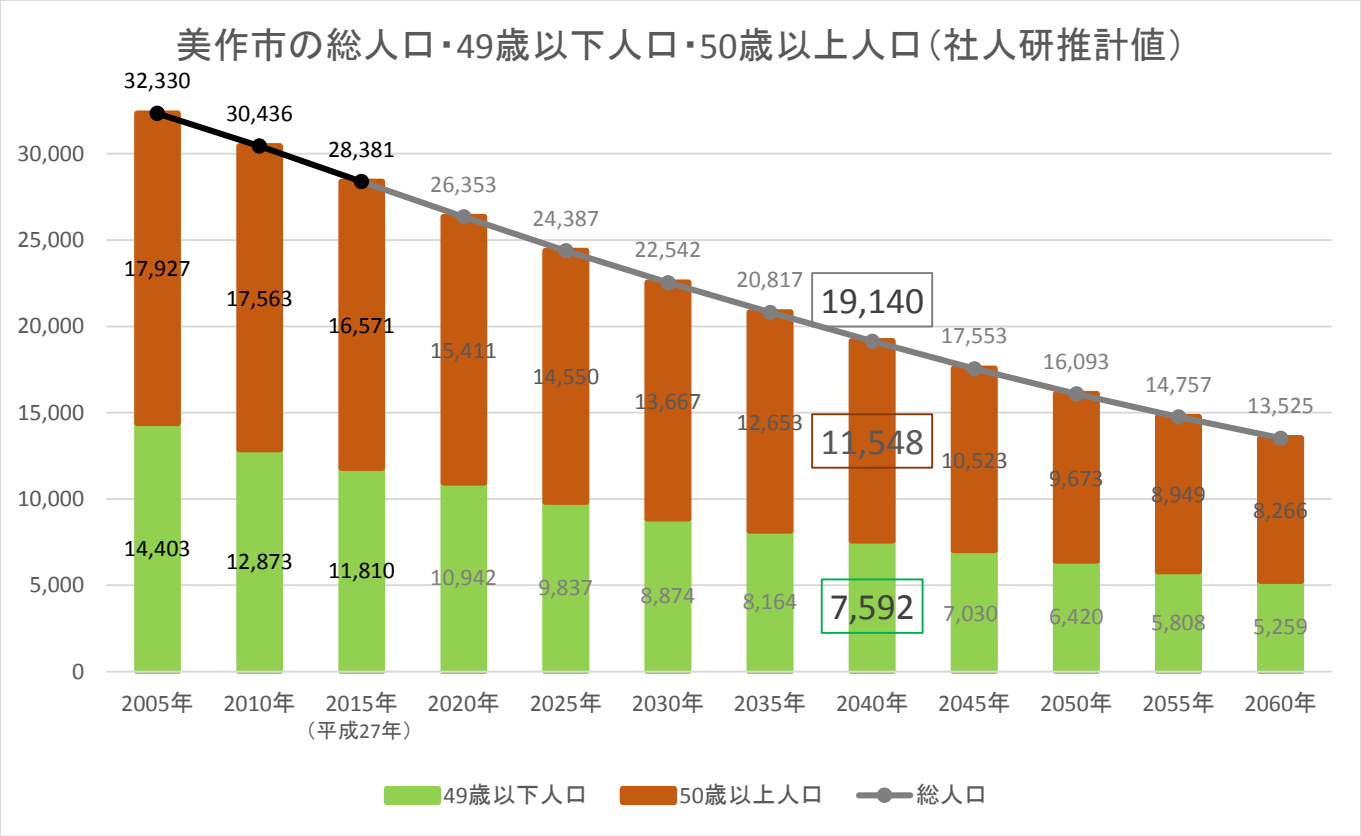
岡山県美作市

1　合併後の人口動向概況・将来人口推計・人口ピラミッド

美作市の人口は、2005 年(平成 17 年)3 月 31 日に 6 町村が合併して市制が施行されて以後、減少し続けている。グラフ 1 は国勢調査の結果をもとに、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が推計する 2005 年以降 5 年毎の美作市の人口である。

それによると現在の自然増減・社会増減の状況が継続すれば、2015 年以降も美作市の人口は一貫して減り続け、2040 年には 19,140 人まで減少するとされる。

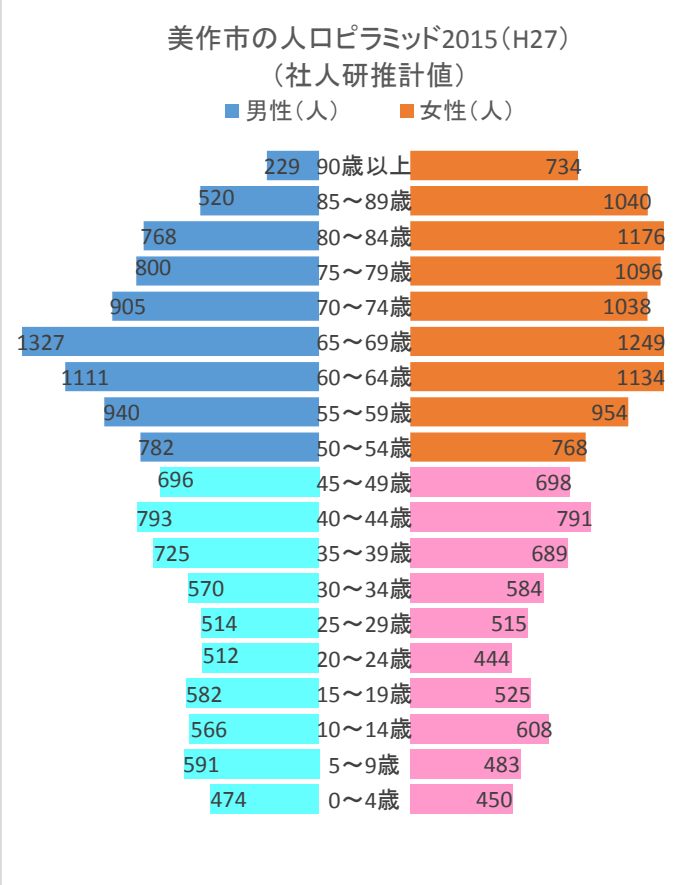
グラフ 1 「美作市の総人口・49 歳以下人口・50 歳以上人口」
（出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）



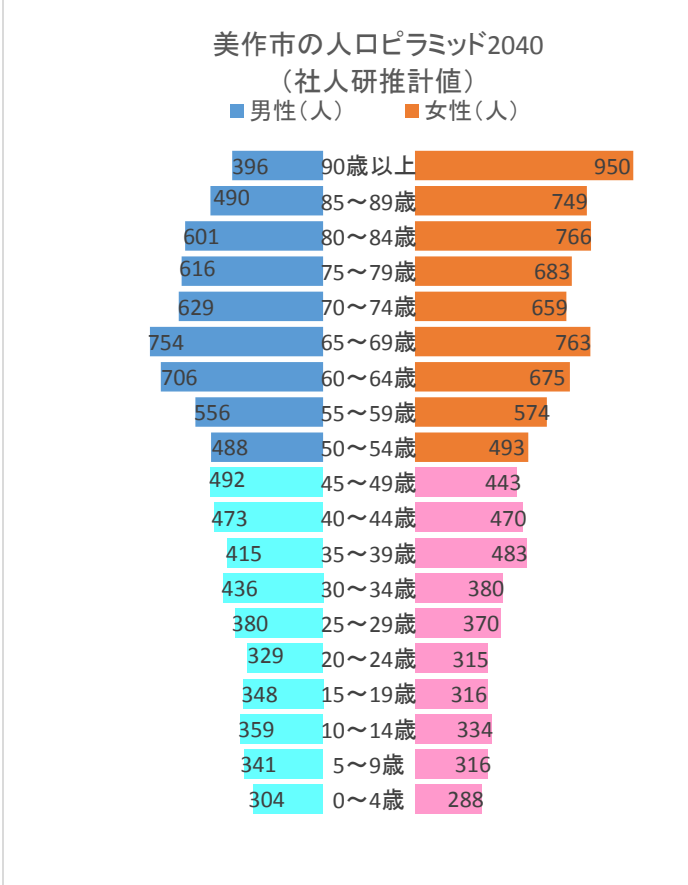
（※2010 年以前は実績値 2015 年以降は推計値）

WHO が合計特殊出生率を計算する際、出産可能年齢の上限としている 49 歳を区切りとして、各年の人口を区分すると、高齢化が進む美作市においては、49 歳以下人口よりも 50 歳以上人口のほうが多いまま推移していくことがわかる。グラフ 2 及び 3 は 2015 年と 2040 年の人口ピラミッドである。いずれの人口ピラミッドも 49 歳以下人口よりも 50 歳以上人口が多く、バランスの悪い形となっている。また、49 歳以下については、いずれのピラミッドも年齢が低下するにつれて人口が少なくなっていることがみて取れる。現状のままでは、人口が先細りとなることが人口ピラミッドにも表れている。

グラフ２「美作市の人口ピラミッド 2015（H27）（社人研推計値）」、
グラフ３「美作市の人口ピラミッド 2040（社人研推計値）」
（出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）



総人口：28,381人
50歳以上男性人口：7,382人（26.01%）
50歳以上女性人口：9,189人（32.38%）
49歳以下男性人口：6,023人（21.22%）
49歳以下女性人口：5,787人（20.39%）
（　）内は総人口に占める割合



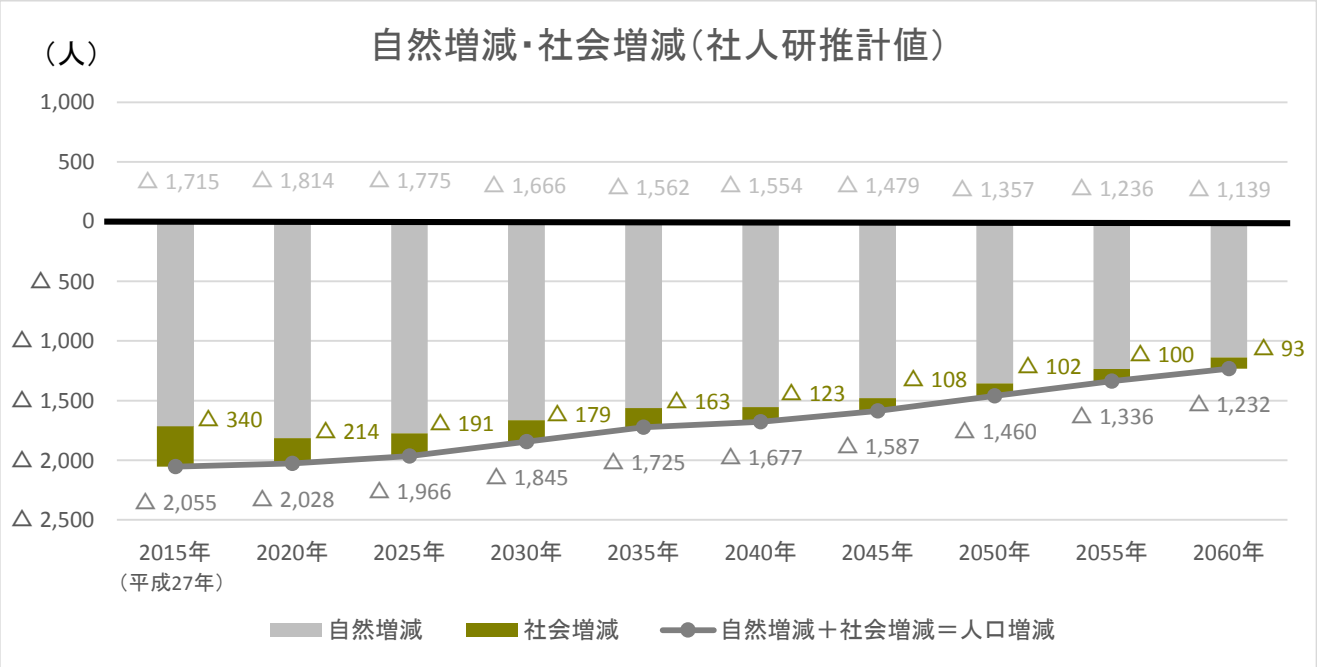
総人口：19,140人
50歳以上男性人口：5,236人（27.36%）
50歳以上女性人口：6,312人（32.98%）
49歳以下男性人口：3,877人（20.25%）
49歳以下女性人口：3,715人（19.41%）
（　）内は総人口に占める割合

２　自然増減・社会増減

グラフ１の人口減少分について自然増減と社会増減に分けて表したものがグラフ４である。高齢化が進んでいる美作市では、死亡数が出生数を大きく上回るため、自然減の幅が 1,000 人以上で推移し続けることがわかる。また、社会増減についても、常に減少が続くと推計されている。

なお自然減・社会減のいずれの幅も年を追うごとに小さくなっているのは、いずれの減少も人口全体に対し一定の割合で生じると推計されていることから、人口全体の減少とともに生じていることによる。状況が好転しているわけではないことに注意すべきである。

グラフ４「自然増減・社会増減」
（出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）



３　美作市への転入超過・美作市からの転出超過

グラフ４の増減のうち 2014 年の社会増減について、美作市への転入超過となっている自治体を示したのがグラフ５、美作市から転出超過となっている自治体を示したのがグラフ６である。2013 年、2012 年についても 2014 年と同じ傾向を示しているため、ここでは 2014 年についてのみ検討する。

美作市への転入超過が最も多くなっているのは、鳥取市である。転入超過 12 人の内訳についてみると、20 歳未満が 2 人、20 歳代が 2 人、30 歳代が 5 人、40 歳代が 0 人となっており、12 人の 75.0%にあたる 9 名が 49 歳以下となっている。鳥取市からの転入者数は、美作市の若年人口の増加に貢献していることが分かる。

美作市への転入超過が２番目に多いのは津山市であるが、転入超過 7 名の内訳をみると、20 歳未満が△4 人、20 歳代が 9 人、30 歳代が△13 人、40 歳代が 6 人、50 歳代が 3 人､60 歳以上が 6 人となっており､49 歳以下に限っては△2 人となっていることから、実際には、美作市から津山市へは 49 歳以下人口が流出し、逆に津山市から美作市へは 50 歳以上人口が流入していることが分かる。

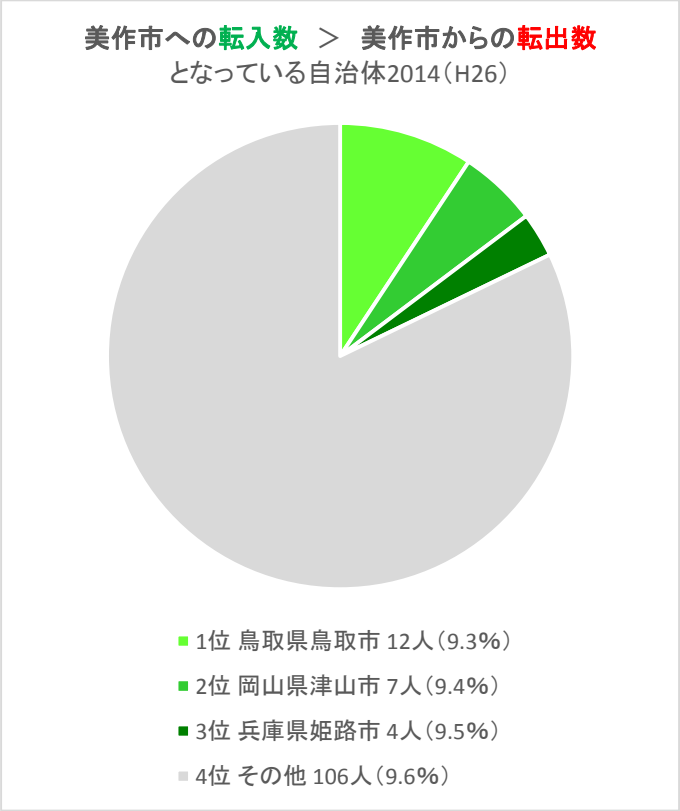
美作市からの転出超過が最も多くなっているのは、隣接自治体である勝央町となっている。勝央町への転出超過 81 人の内訳についてみると、20 歳未満が 28 人、20 歳代が 22 人、30 歳代が 17 人、40 歳代が 9 人となっており、81 人の 93.8%にあたる 76 名が 49 歳以下となっている。勝央町への転出者数が、美作市の若年人口の減少に大きな影響を与えていることが分かる。

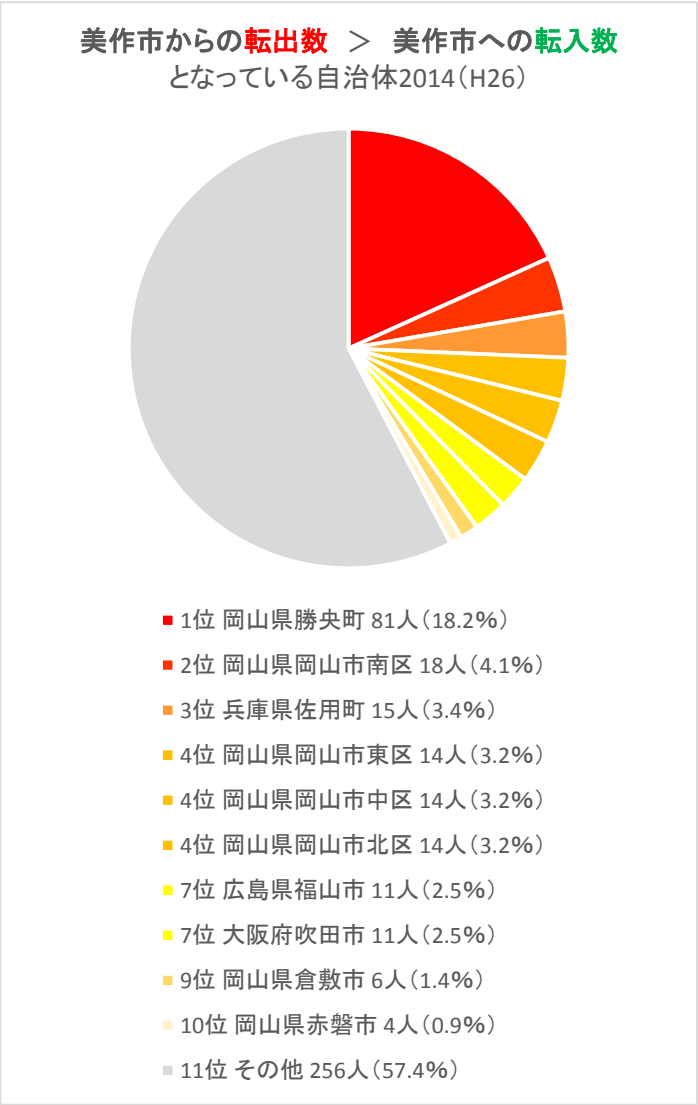
都市部への転出超過については、岡山市が南区、東区、中区、北区の合計で 60 人となっている。岡山市への転出超過 60 人の内訳についてみると、20 歳未満が 11 人、20 歳代が 21 人、30 歳代が 11 人、40 歳代が 9 人となっており、60 人の 86.7%にあたる 52

名が 49 歳以下となっている。勝央町への転出者数と同様、岡山市への転出者数も、美作市の若年人口の減少に大きな影響を与えていることが分かる。

以上より、勝央町、岡山市及び津山市への転出をいかに少なくするかが、社会減をなくすための喫緊の課題であることがみて取れる。

グラフ５「美作市への転入数＞美作市からの転出数となっている自治体 2014」、
グラフ６「美作市からの転出集＞美作市への転入数となっている自治体 2014」
（出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」）





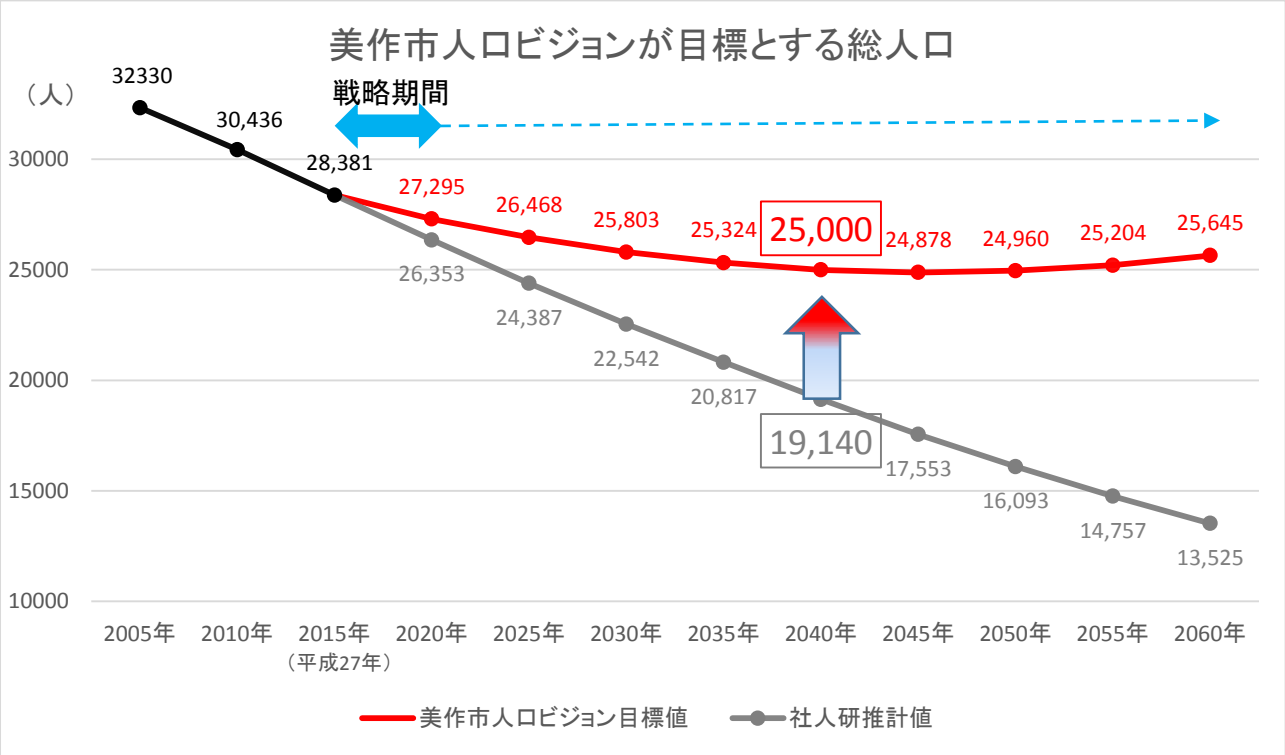
４　美作市人口ビジョンの目標

合計特殊出生率を、2020 年までに 1.80、2025 年までに 2.10 に。 2040 年の人口を 25,000 人以上に。

美作市は 2040 年の市の人口を 25,000 人以上に維持することを目標にしている。この目標が達成できれば、グラフ７が示すとおり、市の人口は 2050 年までには減少から増加

に転じ、今世紀中に平成 17 年合併当初人口と同水準である 30,000 人近くまで回復することが可能となる。

グラフ７「美作市人口ビジョンが目標とする総人口」
（参考：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）



目標達成のため、自然増減と社会増減の目標をどう設定すべきか、以下検討する。

（１）自然増減の目標について

はじめに、自然増減に関する数値である合計特殊出生率の目標値をどう設定すべきかを考える。現在、我が国における死亡水準を前提とした場合、人口置換水準となる合計特殊出生率は、概ね 2.07 とされている。

国立社会保障・人口問題研究所のデータでは、2015 年時点での美作市の合計特殊出生率は約 1.57 とされている。美作市ではこれを 2020 までに 1.80 に、2025 年までに人口置換水準＋α である 2.10 まで引き上げることを目標とする。

2.10 を目標とする理由は、人口置換水準を超える合計特殊出生率を達成できないままであると、人口維持のためには未来永劫社会増に頼らざるをえないことになるが、それは、我が国全体の人口を考えるとき、望ましい姿ではないからである。

（２）社会増減の目標について

合計特殊出生率を 2020 年までに 1.80 に、2025 年までに人口置換水準＋α である 2.10 まで引き上げた場合、美作市の現在の社会増減の状況を前提とすると、市の人口の推計は表 1 のとおりである。これによると 2040 年の推計人口は 20,353 人となり、国立社会保障・人口問題研究所が推計する 2040 年の人口である 19,140 人と比較して 1,213 人の

改善がみられるものの、目標の 25,000 人には及ばない。

したがって、2021～2025 年の合計特殊出生率目標値は 2.10 とした場合、自然増減の改善によっても目標である 25,000 人と比べて不足する 4,647 人については、社会増によって補う必要がある。

表１「社会増減については現状のままという前提で、合計特殊出生率を 2020 までに 1.80 に、2025 年までに人口置換水準＋α である 2.10 まで引き上げた場合の人口推移」
（参考：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）

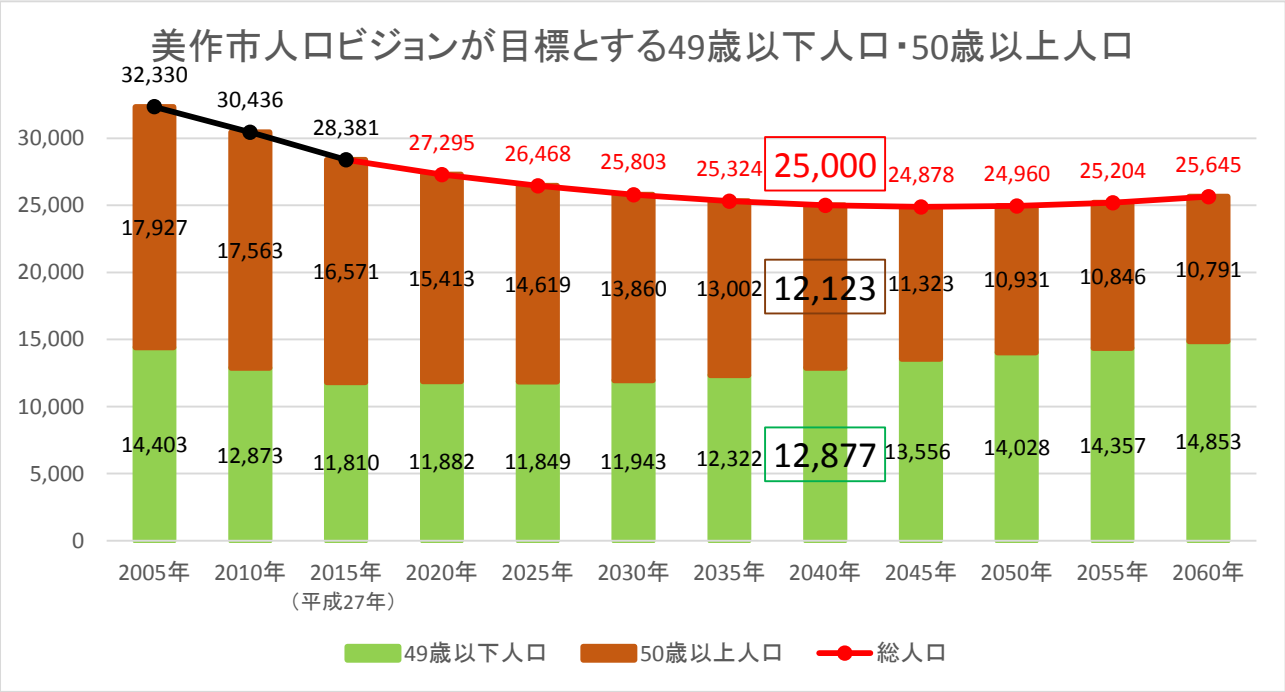
年	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
合計特殊出生率（ｔｆｒ）	1.57	1.80000	2.10000	2.10000	2.10000	2.10000
総人口（人）A	28,381	26,496	24,819	23,253	21,785	20,353
目標とする人口（人）B	28,381	27,295	26,468	25,803	25,324	25,000
目標に不足する人口（人）B－A	－	799	1,649	2,550	3,539	4, 647

グラフ７の赤の実線に示す人口を実現するには、自然増を社会増によって補う必要があるが、その際、自治体の消滅可能性を解消するためにグラフ２やグラフ３の人口ピラミッドにみられるような先細りの人口構成を是正することが望ましい。

よって、社会増を図る際には、WHO が合計特殊出生率を計算する際、出産可能年齢の上限としている 49 歳以下の層をターゲットにすることが適当である。合計特殊出生率が上昇しても、その対象となる 49 歳以下の女性の数が少なければ、出生数はあまり増加しないからである。

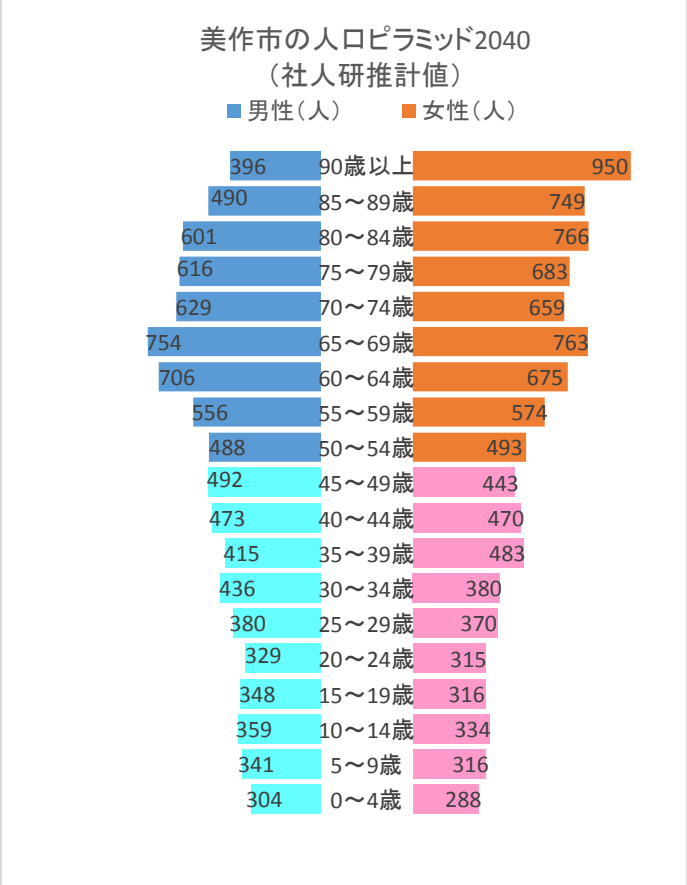
社会増を 49 歳以下の年齢層で行うとすると、グラフ７の赤の実線に示す各年の人口の 49 歳以下人口と 50 歳以上人口の内訳はグラフ８のとおりである。

グラフ８「美作市人口ビジョンが目標とする 49 歳以下人口・50 歳以上人口」
（参考：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）

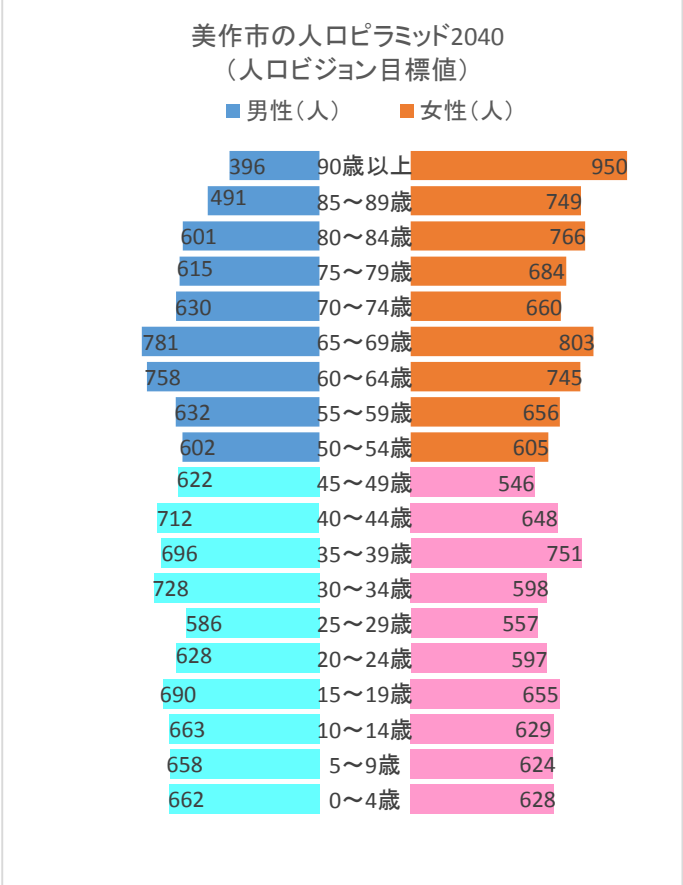


グラフ９の人口ピラミッドは、グラフ８で示す美作市人口ビジョンの目標を達成した際の、2040 年の人口構成を現している。国立社会保障・人口問題研究所が推計する 2040 年人口構成であるグラフ３（再掲）と比較すると、若年人口が大幅に増加し、49 歳以下人口と 50 歳以上人口のバランスが改善されていることが分かる。

グラフ３「美作市の人口ピラミッド 2040（社人研推計値）」（再掲）
グラフ９「美作市の人口ピラミッド 2040（人口ビジョン目標値）」
（出典・参考：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）



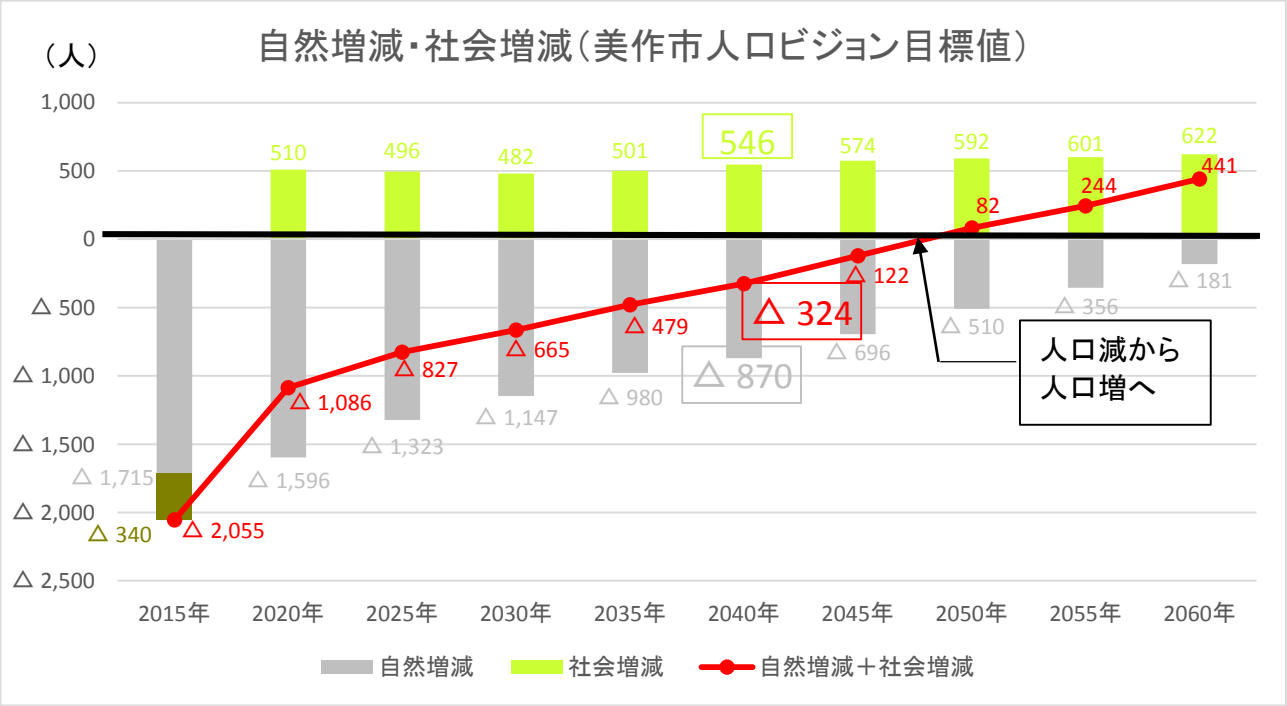
総人口：19,140人
50歳以上男性人口：5,236人（27.36%）
50歳以上女性人口：6,312人（32.98%）
49歳以下男性人口：3,877人（20.25%）
49歳以下女性人口：3,715人（19.41%）
（　）内は総人口に占める割合



総人口：25,000人
50歳以上男性人口：5,506人（22.02%）
50歳以上女性人口：6,617人（26.47%）
49歳以下男性人口：6,644人（26.58%）
49歳以下女性人口：6,233人（24.93%）
（　）内は総人口に占める割合

グラフ８及びグラフ９で示す美作市人口ビジョンの目標を達成するために、49 歳以下人口をターゲットに社会増を図り、その社会増が自然増にも資するようにする必要があることは既に述べたとおりであるが、以上を前提とした 5 年毎の自然増減・社会増減についてはグラフ１０に示すとおりである。

グラフ１０「自然増減・社会増減（美作市人口ビジョン目標値）」
（参考：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）



以下、美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略で、グラフ１０に示す自然増目標・社会増目標を達成するために必要な戦略を順次述べていく。